

トルコの金融市場動向 Weekly Report

【2017年10月21日～2017年10月27日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は1週間を通して見ると対米ドル、対円で下落しました。またトルコの2年国債金利は上昇しました。

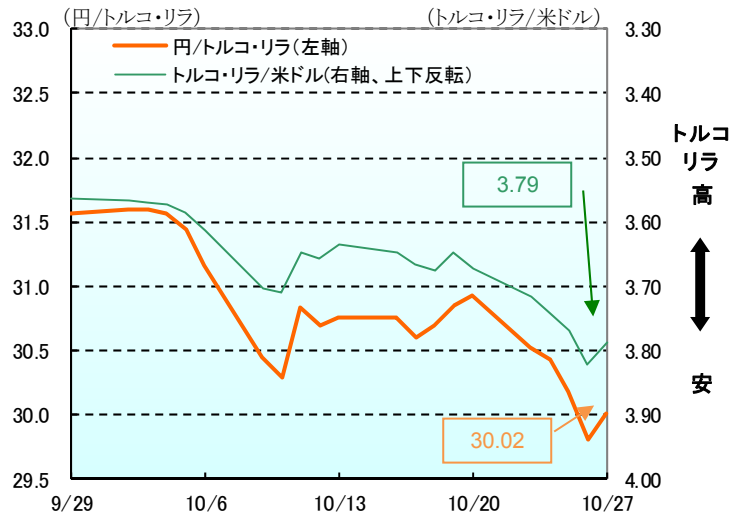
26日(現地、以下同様)に開催された金融政策委員会では、事前の市場予想通り主要政策金利については、後期流動性貸出金利を含めてすべて据え置かれました。声明文では、引き締めの金融政策姿勢をインフレ見通しに顕著な改善が見られるまで断固として維持することが示されました。トルコ金融市場では、週初の国債入札結果が芳しくなかったことや、ECB(欧州中央銀行)理事会後のユーロ安に連れて、トルコ・リラ安が進んだことなどが国債金利の上昇要因となりました。

【2】今週の見通し

今週は、10月分の消費者物価指数の発表が予定されています。事前の市場予想では、引き続き前年同月比での加速が見込まれています。また11月1日には四半期インフレ報告書の発表も予定されています。今後のトルコの金融政策を占う上でもインフレ動向には注目が集まりやすいと考えます。

また外部要因としては、米国においてFOMC(米国連邦公開市場委員会)の開催が予定されているほか、トランプ米大統領による次期FRB(米国連邦準備制度理事会)議長の指名や、米下院委員会による税制改革法案の公表など、重要な政治日程が予定されています。

【トルコ・リラ 為替推移】 (2017年9月29日～2017年10月27日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【トルコ 金利推移】

(2017年9月29日～2017年10月27日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>